音威子府村

6325　　鈴木　智仁

1.　概要と歴史

1.1　概要

「森と匠の村」音威子府は、1904 年開拓の鍬がおろされ、2004 年には開村 100 周年を迎えた。チセネシリ（音威富士）の秀峰を仰ぎ、川（天塩川）の清流に育まれ、総面積の 80％は森林で占められている。数多くの動植物が生息し、そして氷点下 30℃を記録する豪雪地帯であり、四季折々が美しい村である。村の木はアカエゾマツ、村の花はシバザクラ、村の鳥はブッポウソウ。

村名の由来は「オト・イネ・プ」、アイヌ語で濁りたる泥川、漂木の堆積する川口、または切れ曲がる川尻、に由来する。1963 年に常盤村から音威子府に村名を改称した。

1.2　歴史

音威子府の名が初めて登場するのは 1797 年の「松前地並西蝦夷地明細記」である。当時はテシホ場所に属していた。1857 年に松浦武四郎が天塩川流域を訪れ、現在の音威子府筬島付近でアイヌの長老の下に宿泊する。アイヌと深い交流のあった交流のあった松浦武四郎は、蝦夷地を命名する際に「アイヌの国」を意味する「カイ」を取り入れ「北加伊道」という名を提案、これがのちの「北海道」となった。

1896 年より始まった旭川より北方への県道建設は、1904 年の常磐駅逓所（現在の咲来地区）の開設によりようやく現在の音威子府村域に到達した。このとき駅逓取扱の長村秀がこの地に移り住み、これが音威子府村の開基となった。翌年には御料農業地の貸し付けに応じた小作 32 戸が入植した。以降大正に入るまで約 200 戸が村内各地に入植した。

1981 年には「森と匠の村」を標榜した第 2 次計画を実施。1978 年より筬島小学校跡に彫刻家・砂澤ビッキがアトリエを構えたこともあり、豊富な森林資源を生かした工芸の村としての活性化を目指した。また、村内各所にトーテムポールをはじめとする木工作品が設置されている。

3.　地理・気候

3.1　　地理

音威子府村は上川支庁管内の北端に位置し、北東は宗谷支庁管内枝幸町、北は宗谷支庁管内中頓別町、北西は中川町・南は美深町に隣接し東西 22.2km、南北 18.6km、総面積 275.64 平方キロメートルを有している。村の中央を貫流する狭隘な耕地と、総面積の 86%を占める道有林、北海道大学演習林で形成されている。

北緯 44°43′　東経 142°16′　標高 40m に位置する。

図 1　音威子府村の位置

出典：フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

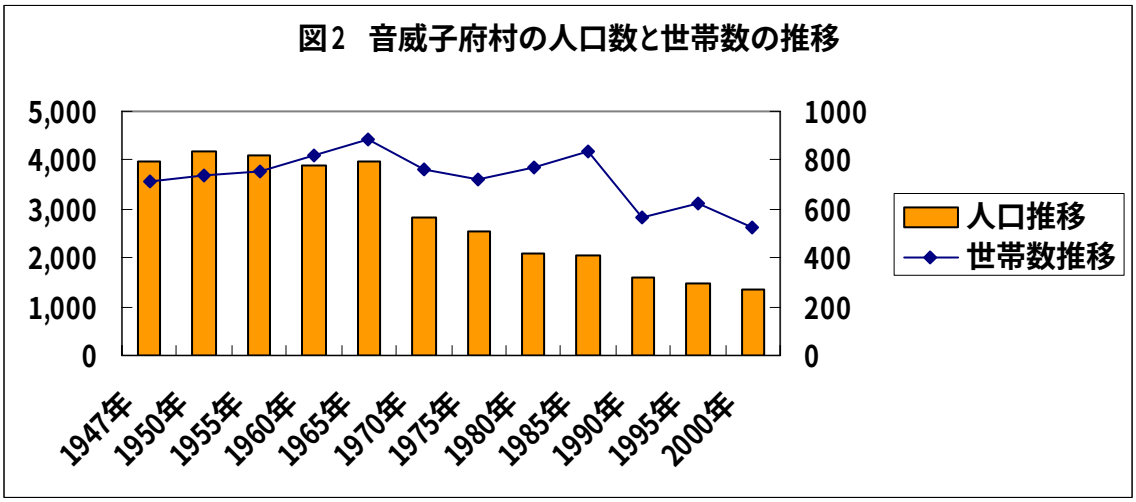
3.2　気候

東西ともに約 50ｋｍでオホーツク海・日本海に達することから、海洋性気象に属し、四方山岳の囲まれた狭隘な盆地的地形のため寒暖の差が激しく、12 月から 3 月の平均気温は-6℃以下、6 月から 9 月は 17℃以上となり酷暑時期には 30℃以上を示す事もあり、酷寒時期には-30℃以下になることもある。

また、道内でも有数の豪雪地帯で降雪量は 12m を超えることもある。1998 年 11 月 18 日未明から 19 日にかけ積雪 135ｃｍを観測し、11 月の積雪量で道内歴代 2 番目の記録となった。

4.　人口・世帯数

1912 年 11 月、国鉄天塩線（現在の宗谷本線）の名寄－音威子府間が開通し、咲来駅と音威子府駅が設置された。音威子府駅周辺は天塩川水運と鉄道の結節点として、また以北の鉄道建設の拠点として急速に発展し、市街地を形成した。1915 年に北見線（のちの天北線）が、1922 年には天塩線が音威子府以北へと延伸すると、両線の分岐する鉄道の町として発展を遂げていった。最盛期は、人口 5000 人のうち 3 割を国鉄関係者とその家族が占めていたという。しかし、1980 年代以降の国鉄分割民営化により、天北線の廃止と駅業務の縮小、それに伴う職員の首都圏への異動などにより人口が激減した。

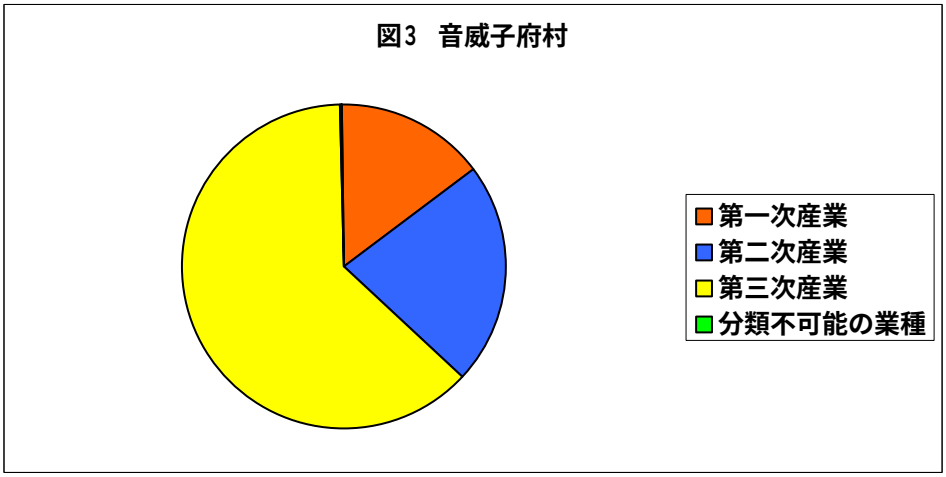


（国勢調査）

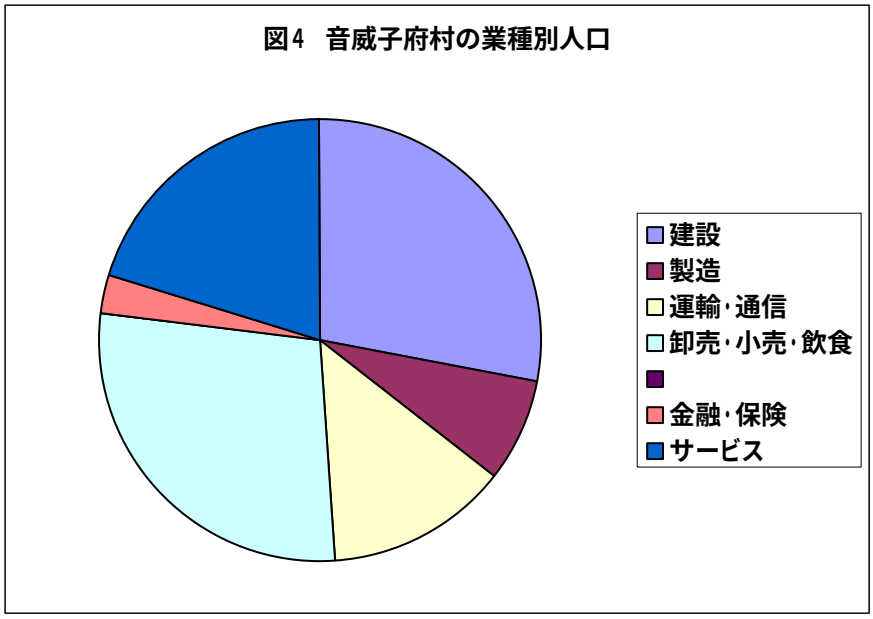
5.　産業

5.1　産業別人口

総人口が 1344 人(2000 年)のうち就業者総数が 645 人、47.9%である。第一次産業従事者数は 97 人(15.0%)、第二次産業従事者数は 141 人(21.8%)、第三次産業は 406 人(62.9%)、その他の業種は１人（0.001%)となっている。対して日本の産業別人口は、第一次産業就業者が就業者数の 5.0%、第二次産業就業者は同 29.5%、第三次産業就業者は同 64.3%となっている。過疎地とはいえ第三次産業では日本の就業のパターンと近いといえる。しかし、第二次産業の占める割合は低く、第一次産業の割合は高い。これは、「森と匠の村」を標榜しているように村ぐるみで木工、工芸をアピールしていることも少なからず影響しているとみられる。



(2000 年国勢調査)



(事業所・企業統計調査　2001 年 10 月 1 日上川支庁調べ　民営のデータのみ)

業種別就業人口(民間)の総数は 270 人であり、内訳は建設業と卸売・小売・飲食業が同数の 76 人である。次いでサービス業の 55 人、運輸・通信業の 36 人、製造業の 20 人、金融・保険業の 7 人となっている。そして、公営の企業に就業する人の総数は 235 人(2001 年)である。

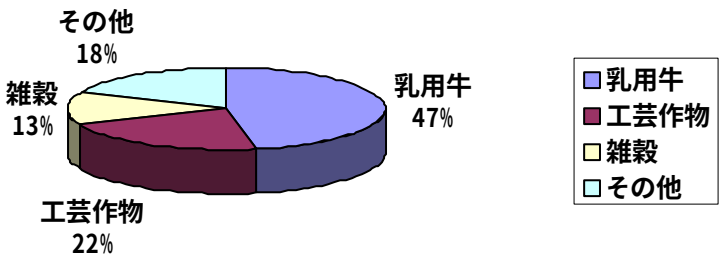
また、卸売業と小売業を合わせた年間販売額は 87,753 万円である。両業種の総数は 18 であり、卸売業が 1、小売業が 17 となっている。

5.2 農業

農業産出額の総額は 55,000 万円である。内訳は乳用牛 26,000 万円(47%)であり、次いで工芸農作物が 12,000 万円(22%)､雑穀が 7,000 万円(13%)､その他野菜等合わせて 10,000 万円(18%)となっている。ここで特筆すべきは、工芸農作物が 2 番目にきていることである。やはり工芸を町の特色とし､『森と匠の村』を標榜するだけあってこの項目は上位に位置している。ここでの工芸農作物とはてんさいであり、おもに加工の原料として栽培される。

またもうひとつ、言及しなくてはならないのは「そば」である。ふつう穀物生産の主となるのは大豆や小麦であるが、音威子府において最大の生産量をほこるのはそばである。そのため音威子府のそばは一種のブランドであり、音威子府の特産物として広く知れ渡っている。音威子府のそばは特に『匠そば』『北厳そば』などと呼ばれている。また、最近、チコリをはじめ新規野菜の作付けも盛んになっている。

図５　農業産出額の内訳



出典：わがマチ・わがムラ　統計データ

6. 観光

観光は、手塩川温泉が有名である。雄大な自然を眺めながらくつろげる露天風呂は隠れた名所と言える。地元で採れる山の幸を使った料理が好評。音威子府の名産ソバもあり、夏季限定の露天風呂もある。天塩川は雄大な自然を残す日本で最北の長大河川。剣淵町からは堰堤も無く大きな瀬がないので初心者でも下れ、ロングツアー派のカヌーイストには人気がある。カヌーポートは天塩川温泉の真下にあるが大勢で利用するなら音威子府市街近くのカヌーポートの方が良いだろう。

図６　手塩川の様子

出展:道北の旅へようこそ

図 7　樹氣

出典：札幌大学展示スペース

音威子府村はアイヌの彫刻家砂澤ビッキ氏がアトリエを構えた地である。ビッキ氏は 1931 年旭川に生まれ、阿寒、鎌倉、札幌と拠点を移しながら、1978 年から音威子府の廃校をアトリエにした。木を素材に彫刻をつくり、木の音を聴き、木に宿る気配、生命を感じながら手技の魅力に満ちた作品はパワーに溢れている。音威子府では彼の作品を見ることが出来る。写真は『樹氣』の札幌での展示会。

音威子府駅の立ち食いソバは独特の真っ黒い麺が特徴的で、テレビや雑誌などにも取り上げられている。鉄道旅行者ならず多くの人々が利用する。

図 8　音威子府駅

出典：フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

引用：上川支庁 HP　http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/index.htm

音威子府村役場 HP

http://www.vill.otoineppu.hokkaido.jp/Cgi-bin/odb-get.exe?WIT_template=AM04000

↓

北海道庁 HP　http://www.pref.hokkaido.lg.jp/

わがマチ・わがムラ HP　http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/index.html

道北の釣りと旅 HP　http://hiro239.fc2web.com/index.html

札幌大学展示スペース HP　http://www.sapporo-u.ac.jp/gallery/index.html